

# 社会福祉法人飛驒慈光会定款

## 第1章 総則

### (目的)

第1条 この社会福祉法人（以下「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

#### (1) 第一種社会福祉事業

- (イ) 児童養護施設の経営
- (ロ) 障害児入所施設の経営
- (ハ) 母子生活支援施設の経営
- (ニ) 障害者支援施設の経営

#### (2) 第二種社会福祉事業

- (イ) 障害福祉サービス事業の経営
- (ロ) 一般相談支援事業の経営
- (ハ) 特定相談支援事業の経営
- (ニ) 障害児相談支援事業の経営
- (ホ) 障害者就業・生活支援センター事業の経営
- (ヘ) 障害児通所支援事業の経営
- (ト) 移動支援事業の経営
- (チ) 子育て短期支援事業の経営
- (リ) 児童家庭支援センター事業の経営

### (名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人飛驒慈光会という。

### (経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を确实、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

2 この法人は、地域社会に貢献する取組みとして、地域の障害者、子育て世帯、経済的に困窮する者等を支援するため、無料又は低額な料金で福祉サービスを積極的に提供するものとする。

### (事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を岐阜県高山市山田町831番地の1に置く。

## 第2章 評議員

(評議員の定数)

第5条 この法人に評議員15名以上18名以内を置く。

(評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選任・解任委員会において行う。

2 評議員選任・解任委員会は、監事2名、事務局員1名、外部委員2名の合計5名で構成する。

3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。

4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。

5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名以上が出席し、かつ、外部委員の1名以上が賛成することを要する。

(評議員の資格)

第7条 社会福祉法第40条第4項及び第5項を遵守するとともに、この法人の評議員のうちには、評議員のいずれか1人及びその親族その他特殊の関係があるもの（租税特別措置法施行令第25条の17第6項第1号規定するものをいう。以下同じ。）の合計数が、評議員総数（現在数）の3分の1を超えて含まれることにはならない。

(評議員の任期)

第8条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。

3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員の報酬等)

第9条 評議員に対して、各年度の総額が820,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬として支給することができる。

## 第3章 評議員会

(構成)

第10条 評議員会は全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第 11 条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) 事業計画及び収支予算の承認
- (10) 臨機の措置（予算外の新たな義務の負担及び権利の放棄）
- (11) 公益事業・収益事業に関する重要な事項
- (12) 解散
- (13) その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(開催)

第 12 条 評議員会は、定時評議員会として毎年度 6 月に 1 回開催するほか、3 月及び必要がある場合に開催する。

(招集)

第 13 条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第 14 条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の 3 分の 2 以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第 1 項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第 16 条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

4 第 1 項及び第 2 項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第 15 条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人 2 名がこれに記名押印する。

第 4 章 役員及び職員

(役員の数)

第 16 条 この法人には、次の役員を置く。

(1) 理事 10 名

(2) 監事 4 名

2 理事のうち 1 名を理事長とする。

3 理事長以外の理事のうち 3 名又は 4 名を業務執行理事とする。

4 業務執行理事のうち 1 名を常務理事とする。

(役員を選任)

第 17 条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2 理事長及び常務理事、業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

(役員資格)

第 18 条 社会福祉法第 4 4 条第 6 項を遵守するとともに、この法人の理事のうちには、理事いずれか 1 人及び親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数（現在数）の 3 分の 1 を超えて含まれることになってはならない。

2 社会福祉法第 4 4 条第 7 項を遵守するとともに、この法人の監事には、この法人の理事（その親族その他特殊の関係がある者を含む。）及び評議員（その親族その他特殊の関係がある者を含む。）並びに、この法人の職員が含まれてはならない。また、各監事には、相互に親族その他特殊の関係がある者であってはならない。

(理事の職務及び権限)

第 19 条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。常務理事は、理事長を補佐し日常的な業務を統括し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3 理事長及び常務理事、業務執行理事は、3 カ月に 1 回以上、自己の職務の執行状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第 20 条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して業務の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況を調査することができる。

(役員任期)

第 21 条 理事又は監事の任期は、選任後 2 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。

3 理事又は監事は、第 16 条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了または辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員解任)

第 22 条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

(1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。

(2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(役員報酬等)

第 23 条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

(責任の免除又は限定)

第 24 条 理事又は監事が任務を怠ったことによって生じた損害について社会福祉法人に対して賠償する責任は、職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がなく、その原因や職務執行状況などの事情を勘案して特に必要と認める場合には、社会福祉法第 45 条の 22 の 2 において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 113 条第 1 項の規定により免除することができる額を限度として理事会の決議によって免除することができる。

2 理事（理事長、業務執行理事、業務を執行したその他の理事又は当該社会福祉法人の職員でないものに限る。）、監事（以下この条において「非業務執行理事等」という。）が任務を怠ったことによって生じた損害について社会福祉法人に対して賠償する責任は、当該非業務執行理事等が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、10 万円以上であらかじめ定めた額と社会福祉法第 45 条の 22 の 2 において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 113 条第 1 項第 2 号で定める額とのいずれか高い額を限度とする旨の契約を非業務執行理事等と締結することができる。

(職員)

第 25 条 この法人に職員を置く。

2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。

3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

## 第5章 理事会

### (構成)

第26条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

### (権限)

第27条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長及び業務執行理事の選定及び解職

### (招集)

第28条 理事会は、理事長が招集する。

- 2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

### (決議)

第29条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

### (議事録)

第30条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 当該理事会に出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

## 第6章 資産及び会計

### (資産の区分)

第31条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産、公益事業用財産及び収益事業用財産の4種とする。

- 2 基本財産は、次の各号（別紙1）に掲げる財産をもって構成する。
- 3 その他財産は、基本財産、公益事業用財産及び収益事業用財産以外の財産とする。
- 4 公益事業用財産及び収益事業用財産は、第39条に掲げる公益を目的とする事業及び第41条に掲げる収益を目的とする事業の用に供する財産とする。
- 5 基本財産に指定されて寄付された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続きを取らなければならない。

### (基本財産の処分)

第32条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事総数（現在数）の3

分の2以上の同意及び評議員会の承認を得て岐阜県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には岐阜県知事の承認は必要としない。

- 一 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に提供する場合
- 二 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付けが行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に提供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

（資産の管理）

第33条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。

2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。

（事業計画及び収支予算）

第34条 この法人の事業計画書、収支予算書については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事総数（現在数）の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も同様とする。

2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（事業報告及び決算）

第35条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）
- (5) 貸借対照表及び収支計算書（資金収支計算書及び事業活動計算書）の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を得なければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

（会計年度）

第36条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第 37 条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第 38 条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数の 3 分の 2 以上の同意及び評議員会の承認を受けなければならない。

## 第 7 章 公益を目的とする事業

(種別)

第 39 条 この法人は、社会福祉法第 26 条の規定により、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、自立した生活を地域社会において営むことができるよう支援することなどを目的として、次の事業を行う。

(1) 飛騨うりす苑診療所の事業

(2) 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく地域生活支援事業（第二種社会福祉事業に該当するものを除く。）

(3) 福祉有償運送事業

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の 3 分の 2 以上の同意及び評議員会の承認を受けなければならない。

(余剰金の処分)

第 40 条 前条の規定によって行う事業から生じた余剰金は、この法人の行う社会福祉事業又は公益事業に充てるものとする。

## 第 8 章 収益を目的とする事業

(種別)

第 41 条 この法人は、社会福祉法第 26 条の規定により、次の事業を行う。

(1) 本部会計収益事業

2 前項の事業の運営に関する事項については、理事総数の 3 分の 2 以上の同意及び評議員会の承認を受けなければならない。

(収益の処分)

第 42 条 前条の規定によって行う事業から生じた収益は、この法人の行う社会福祉事業又は公益事業に充てるものとする。

## 第 9 章 解散



(解散)

第 43 条 この法人は、社会福祉法第 46 条第 1 項第 1 号及び第 3 号から第 6 号までの解散事由により解散する。

(残余財産の帰属)

第 44 条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

(保有する株式に係る議決権の行使)

第 45 条 この法人が保有する株式（出資）について、その株式（出資）に係る議決権を行使する場合には、あらかじめ理事総数の 3 分の 2 以上の承認を要する。

## 第 10 章 定款の変更

(定款の変更)

第 46 条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、岐阜県知事の認可（社会福祉法第 45 条の 36 第 2 項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を岐阜県知事に届け出なければならない。

## 第 11 章 公告の方法その他

(公告の方法)

第 47 条 この法人の公告は、社会福祉法人飛騨慈光会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

(施行細則)

第 48 条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

### 附則

1 この定款は、法人認可のあった日（昭和 31 年 9 月 8 日）から施行する。

2 この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款にもとづき、役員を選任を行うものとする。

理事長	三島	常馨
理事	泉	信堂
〃	松本	吉助
〃	白川	吉郎
〃	林	フジ

監 事 旭野 正信  
" 水木 吉祥  
" 安藤 はな

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（昭和34年8月5日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（昭和42年7月25日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（昭和42年10月25日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（昭和51年11月18日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（昭和52年2月28日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（昭和55年8月18日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（昭和57年6月19日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（昭和57年6月29日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（昭和60年5月9日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成1年4月17日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成1年12月18日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成3年5月18日）から施行する。

付則

1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成3年12月2日）から施行する。

付則

1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成6年2月21日）から施行する。

付則

1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成6年4月1日）から施行する。

付則

1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成8年4月1日）から施行する。

付則

1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成9年11月18日）から施行する。

付則

1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成10年4月1日）から施行する。

付則

1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成10年6月1日）から施行する。

付則

1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成11年7月8日）から施行する。

付則

1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成12年4月1日）から施行する。

付則

1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成13年4月1日）から施行する。

付則

1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成13年8月20日）から施行する。

付則

1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成13年9月25日）から施行する。

付則

1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成15年4月15日）から施行する。

付則

1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成16年7月26日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成 17 年 6 月 21 日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成 18 年 5 月 26 日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成 18 年 12 月 28 日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成 20 年 10 月 20 日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成 22 年 6 月 21 日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成 24 年 5 月 7 日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成 25 年 6 月 10 日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成 25 年 11 月 14 日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成 26 年 6 月 25 日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成 26 年 11 月 18 日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更の届出を行った日（平成 27 年 12 月 14 日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成 28 年 6 月 22 日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、平成 29 年 4 月 1 日から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（平成 29 年 8 月 17 日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更の届出が受理された日（平成30年7月31日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（令和元年8月6日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（令和2年7月7日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（令和2年11月4日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（令和4年5月25日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更の届出が受理された日（令和4年7月15日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（令和4年11月18日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更の届出が受理された日（令和5年5月30日）から施行する。

付則

- 1 この定款は、定款変更認可のあった日（令和5年11月16日）から施行する。